

はこぶね



社会福祉法人

ミッドナイトミッションのぞみ会

乳児院 望みの門方舟乳児園

〒299-1607 千葉県富津市湊 705

TEL 0439-67-2131 FAX 0439-67-2134

URL <http://www.nozominomon.or.jp>

Eメール hakobune@nozominomon.or.jp

発行責任者 佐野 毅

編集責任者 島野 佳央里

第4号 2010年9月1日

人を育てる

園長 佐野 毅

望みの門方舟乳児園も、おかげさまで開設二年目を迎えました。昨年度末から依頼を受けていた保育関係大学・短大から、将来保育士を目指す学生の「保育実習」をこの八月から思い切って受け入れることにしました。しかし、実は今回の実習受け入れにあたっては、私自身相当悩み考えました。と、言いますのも、開設二年目で、こちら(受け入れ側)の力量がまだ充分備わっていないのではないかと。せっかく期待に胸を膨らませて本園に実習に来てくれた学生に対して十分な指導体制が構築できるのか。実のところ、半分以上は不安だらけでした。最後に私の背中を強く押してくれたのは、現場のスタッフたちの声です。「これから保育士を目指す学生たちに、一人でも多く、今の乳児院が置かれている現状を学んで欲しい。そして、一人でも多くの『乳児院を理解してくれるサポーター』を増やしたい。そのためには私たちも学生と共に大いに学べる良いチャンスだから、ぜひ積極的に学生を受け入れましょう。受け入れてください。」の一言でした。

八月下旬に初めての女子学生を保育実習生として(約二週間の住み込み実習として)受け入れました。九月初旬に実習が修了しますので、まだ結果は出ていませんが、果たして私

たちが提供した保育実習は良かったのか、良くなかったのか。実習後の振り返りと反省を充分に行い、次に迎え入れる学生の受け入れに充分に反映していきたいと思えます。

もうひとつの話は、昨年度から始めた職員勉強会(通称)「はこぶねくらぶ」の新たな取り組みの一環として今年度は、外部講師を招くことにしました。私たちはとかく「井の中の蛙」に陥りがちです。外部の先生方から新しい「風」を吹き込んでいただき、また外部の先生方に望みの門方舟乳児園の養育・保育を見ていただき御意見を承る、というのが主旨です。「はこぶねくらぶ」の詳細については本誌の後段でも触れましたが、縁あってここに集うことになった子どもたちに対してより良い養育・保育を提供・実践していく。その為に私たち職員は常に研鑽を惜しまない、という姿勢で今後とも臨んでいく所存です。

秋には、地元富津市内で「地域子育て支援センター」を運営している保育園に視察研修に伺う予定です。「育ち」とは? 「幼い子どもを持つお父さん・お母さんに対する支援のあり方とは?」について、支援センターのベテラン主任保育士さんから教えを請うことになっていきます。

「育ち合い(愛)、分かち合い(愛)、学び合い(愛)」をテーマに、この一年間、職員の専門性の更なる向上に努めて参りたいと思えます。

4月23日 いちご狩り

あいにくの雨模様の天候でしたが、子どもたち全員で初めてのお出かけです。

園長の運転で、かずさの里のマイクロバスに乗って、いざイチゴ農園へレッツゴー。バスの中では子どもたちは少し緊張している様子でしたが、イチゴ農園に着くとみんなの目の色が変わってとても嬉しそうにしています。

マーちゃんは両手いっぱいイチゴを持って、得意げにイチゴの苗の下を歩き回りながら黙々と食べていました。

ユークんは自分がお腹いっぱいになると、今度はみんなの口に取ったばかりのイチゴを入れて歩いていました。

乳児たちには、職員がもぎ取ったイチゴをつぶしてパクツと一口。早く大きくなって、今度は自分たちの手でイチゴをお腹いっぱい食べたいね。

子どもたちは、手や口をイチゴ色に真っ赤に染めて、満面の笑みでした。みんなお腹いっぱい食べて大満足な一日だったね。



5月5日 子どもの日

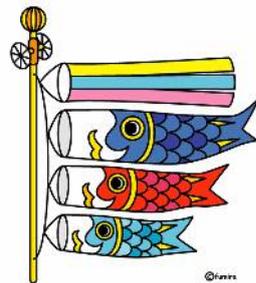
こいのぼりと五月人形を飾り、今年は5名の男の子が初節句を迎えました。

白いシャツと蝶ネクタイ、黒いズボンに着替え、五月人形の前で園長と一緒に記念写真をパチリと撮りました。

みんなちよっぴり緊張気味だったね。

おやつにはかしわ餅を食べ、お風呂は菖蒲の葉を入れて入りました。

一日楽しく過ごせたことに感謝しつつ、子どもたちの健やかな成長をお祝いすることができました。



6月1日

読み聞かせボランティア

毎月一回、方舟乳児園に、読み聞かせのボランティアさんがいまして、読んでくださいます。

子どもたちは、始めの頃はとても緊張して、職員の側から離れられずにいました。しかし、

そんな子どもたちも、今では自分の名前を呼ばれればサツと手を挙げて大きな声で返事ができるようになりました。手遊びに歌に合わせて真似っ子もできます。表情もとても明るく柔らかくなりました。

月に一度の読み聞かせボランティアさんによる心の定期便は、子どもたちの明るく健やかな笑顔が見られる瞬間の一つです。

読み聞かせの時間が過ぎて、お帰りの時間になると、お決まりの「さよなら」のご挨拶です。「さよなら あんころもち またきなこと」。(また来てね、の意)

子どもたちも職員も、みんな楽しんでいひとときを過ごさせていただけいております。



6月18日 父の日

幼児みんなで日頃の感謝を込めて、父の日のイラストに色塗りをしました。

初めはお絵描きをしていても興味を示さなかったヒーちゃんですが、今では飽きることなくお絵描きができるようになりました。父の日のイラストもバッチリです。

部屋に絵を貼ると「〇〇くん」「△△ちゃん」と、誰がどの絵を描いたのか、みんな得意げに指差しています。

みんな色塗りが上手になったね。同じイラストでも色や塗り方はそれぞれ個性が溢れていて様々で、心のこもった父の日のプレゼントができました。



7月7日 七夕

七夕に向けて、子どもたちは折り紙を使って三角つなぎと四角つなぎの製作をしました。のりを付けた折り紙を渡されると「ペタ。ペタ」と言いながら短冊に貼り付けていきました。出来上がった短冊飾りを笹に付けると「上手」と、子どもたちは手を叩いて喜んでいました。

七夕当日の朝、突然の暴風雨で残念ながら笹はしおれ、笹飾りは半分園庭のあなたへ吹き飛ばされてしまいました。風が治まる瞬間を見計らって、笹飾りの前で記念写真を撮ることができました。

その日の夕飯は「天の川」に見立てたちらし寿司でした。チーズや人参のお星さまがトッピングされていて、とてもきれいでした。

「たなばた」の歌を振り付きで教えたところ、まだ言葉が上手に言えない子も語尾だけはバツチリ。今でも時々思い出しては唄って

いますが、言葉も大分はつきりと言えるようになったね。

8月を過ぎても「たなばた」の歌が聞こえてくる方舟です。



8月3日 夕涼み会

待ちに待ったバーベキュー。みんな揃ってカッコよく甚平を着こんでオシャレを決めました。

芝生が青々と茂った園庭でバーベキューを楽しみ、焼き立てのお肉や夏野菜・焼きそばをたくさん食べました。

スーちゃんやウインナーを片手に握りしめ、豪快にかぶり付いていました。

食後はデザートのスイカを食べながら、少し離れた所から危なくないように職員が火をつけて花火を見ました。花火は、県内の煙火



協会（手持ち花火の製作者協会）様よりのご寄贈品でした。

子どもたちは、いつもと違う雰囲気には少し緊張していましたが、時間が経つに従って緊張も徐々に解きほぐれ、そのうち周りをうろうろ歩きまわったり、ニコニコと笑顔も見られるようになりました。東京湾から吹いてくる夕べの渚風が。火照った肌にとっても心地よく、子どもたちの無邪気な笑顔を見ると、この暑い夏も乗り切れるような、そんな贅沢な夏の夕暮れでした。

8月1日 水遊び

梅雨も明けて、夏真っ盛り。みんな元気いっぱい外で遊び、毎日汗びっしりです。

今年初めての水遊びではみんな嬉しそうで、水道ホースから水が出ると喜んだり

びっくりしたりと色々な反応を示してくれました。

大好きなトーマスの機関車に水を入れると、みんな手を入れたり水をこぼしたり大はしゃぎ。

夏と言えばカブトムシやクワガタ、様々な昆虫が方舟の園庭にやってきました。捕まえて子どもたちに見せたり、触らせるとみんな「虫ムシー！」と大騒ぎです。



女の子たちは昆虫を怖がることなく、興味津々に触ってみたり掴んでみたりしていましたが、なぜか男の子たちはというところ…怖くて泣きだしたり、逃げ出してしまったり…。

「負けるな男子。根性を出せ!」

女の子の気丈さと、男の子の気弱さに、こちらでも思わず笑ってしまいました。

今でも緊張気味でおっかなびっくりではありますが、男の子たちも少しずつ昆虫に触れるようになってきたね。



はこぶねくらぶ

昨年の開設と同時にスタートした「はこぶねくらぶ」。方舟乳児園では月一回職員勉強会を設け、テーマに沿って職員同士で話し合ったり、事前に調べた資料を交換し合ったりしています。

今年は外部から講師をお招きし、貴重なお話を伺う機会としています。

7月は聖愛乳児園のフミリーソーシャルワーカー長谷川美智子さん。8月は里親研修会ということで、ひろせホームの廣瀬タカ子さんに講師をお願いしました。

お忙しい中時間を作ってください、私たち

職員の為に学習の機会を与えてくださり大変感謝しています。おかげ様でとても貴重な時間を過ごす事ができました。それぞれの講師の先生から学んだことを子どもたちへの関わりの中で活かしていきたいと思います。

「はこぶねくらぶ」は、日頃の保育業務に忙殺されてなかなか行えない職員同士の意見交換や相互研鑽の場として、今後とも充分に活用し切磋琢磨していきたいです。

寄贈品・ボランティア

ありがとうございます

子どもたちのために温かいご芳志を賜り、職員一同大変感謝しております。ここに御礼を申し上げますと共に御報告させていただきます。

【寄贈品】

- ・富津市内 三神様
- ・稲荷木ラブホテル建設反対母の会 花房恭子様
- ・日本キリスト教団茂原教会様
- ・山本医院様
- ・日本キリスト教団千葉教会 釧持昭子様
- ・茂木様
- ・京葉後援会の皆様

【ボランティア】

- ・読み聞かせボランティア（岡部様・新保様）
- ・植草学園短期大学 栗坂寛子様

編集後記

昨年四月に開設した望みの門方舟乳児園も、毎日が悪戦苦闘の連続で、いつの間にかアツという間に二年目を迎えました。

今年は初めての試みで、子どもたち全員での外出がありました。マイクロボスに乗ってイチゴ狩りに出掛け、みんなお腹も心も大満足でした。

子どもたちも園での生活に大分慣れてきたので、これからは少しずつ近隣への外出を増やしていきたいと思っております。子どもたちに新しい経験や活動をたくさん味わってもらい、明るく元気な笑顔をたくさん見ることができたら幸いです。

地域の方々や関係機関の皆様方の御心遣いのおかげで、今年もたくさん御寄贈品やボランティアさんに来ていただき大変感謝しております。頂戴したものは当園にて十分に活用させていただきます。

一年目の反省や課題を活かし、子どもたちの養育に励んでいきたいと思えます。

今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願いたします。

(K・S)

